

クリエイティブがカギ



福祉系学部以外の学生も参加した

2017年3月卒業予定の学生を対象にした「FUKUSHI就職フェア」が3月21日、日本財団ビル（東京都）で開かれ、400人が訪れた。一般社団法人「FACE to FUKUSHI」（F2F）の主催。就職活動の時期が慣例で遅い福祉業界だが、会場は熱気に包まれた。

F2Fは12年に、若手福祉人材の発掘や育成のサポートなどを目的に法人化。NPO法人み・らいずの河内崇典代表理事と社会福祉法人ゆうゆうの大原裕介理事長が共同代表を務める。フェアの開催は2回目で、全国の社会福祉法人とNPO法人16団体が参加した。

オープンイベントでは、法人が事業の特徴を話すピッチトークを実施。子どもや障害者、高齢者分野など幅広く支援できることや、現場

学生向け就職フェアに400人

の実践を踏まえて国へ制度改革を働きかけていることなど、それぞれが法人の特徴をアピールした。

その後学生らは、法人ごとのブースに向き、説明を聞いた。今回の就職フェアは「福祉×○○」がテーマ。各法人が○○の部分に「芸術」「こちゃませ」「デザイン」などと法人の特徴を入れてアピールした。またタブレット端末や職場の写真などを活用する法人も多かった。

京都の社会福祉法人南山城学園（磯彰格理事長）は20代の女性職員がパネルを使いながら、育児やキャリアアップなどサポートも充実しているを紹介。新卒の3年後離職率は5%だという。

16年度には新卒職員を20人募集する予定で、同法人の岩田貞昭・企画広報課長は「大学と連携した事業の実施やネットの活用など、さまざまにチャネルを駆使して優秀な人材を早く集めたい」と話す。

一方、学生に話を聞くと、社会課題の解決や新規事業の立ち上げなど、クリエイティブ

な面を重視する学生が多かった。

都内在住の女子学生は、私服でいいと聞き気軽な気持ちで参加した。「福祉を学んではいないが、働くなら社会に貢献できる仕事がいい。面白そうな職場が多い就職フェアだった」と感想を述べた。また、東北福祉大学の男子学生は「制度の枠にとらわれず、地域に出ていくことに前向きな法人を選びたい」と語った。

F2Fは今後、日本財団など独自の基準を設けた上で、さらに就職フェアへの参加法人を増やす方針。50法人の参加と、1000人の来場者を当面の目標に掲げる。

河内代表理事は「福祉は、ただのサービス業ではなく、地域まで巻き込んで支援することもあるクリエイティブな仕事。それをきちんと実践してアピールできれば人材は集まる。福祉職場での虐待が相次いでおり、マイナスイメージを払拭したい」と話す。今後は職員の定着支援も強化したいという。

会社経営の事業者 指定取り消し相次ぐ

会社経営の事業者

よる架空請求が判明。介護保険法、生活保護法、障害者総合支援法

や新規指定が受けられなくなる。

一方、市は、事実と異なる申請書類を作成し、基準を満たしていないのに加算金を加えた約

の規定に基づき、指定取り消しを決めた。取

利用（77）の自宅マンションの玄関ドアに鍵を取り付けて外から施錠し、外出できないようにしていた。

社会 ね備え 入を表 ンヤル プワード

社